

個人投資家様向け会社説明会

PILLAR 株式会社 **PILLAR**

(証券コード：6490)

2025年6月2日

代表取締役社長
岩波 嘉信

01 PILLARってどんな会社？

02 業績推移・業績予測・中期経営計画

03 株主還元

01

PILLAR ってどんな会社？

2024年、創業100周年を機に社名およびロゴを刷新



株式会社 PILLAR

(旧社名：日本ピラー工業株式会社)

2025年、創業101周年を迎えた当社は、

創業1年目のベンチャー精神に立ち返り、更なる進化に挑む



社名の由来

船舶の蒸気機関からの漏れを防ぐシール製品として、創業時に開発した「ピラーパッキンNo.1」の形状が、柱状（=P I L L A R）であったことから日本ピラー工業（現：株式会社PILLAR）と命名されました。

創業	1924年（大正13年）
代表者	取締役社長 岩波嘉信
株式	東証プライム（証券コード:6490）
資本金	49億66百万円
事業内容	流体制御関連機器製品の製造販売
従業員数	1,212名（連結:2025年3月末現在）
売上高	579億88百万円（連結:2025年3月期）

パーパス

“社会を支える”未来を創る

C L E A N	エネルギーを最小限に ベネフィットを最大限に
S A F E T Y	何よりも安全を いつでも安心を
F R O N T I E R	常に最先端へ もっと新分野へ

社 是

品	質	第	一
和	衷	協	力
一	歩	研	究

PILLAR歴史振り返り動画

【当社WEBサイト】
動画で見る
PILLAR



動画再生：PILLARの歴史紹介（3分間）



1924

「日本ピラー工業所」設立



創業者
岩波嘉重

1948

株式会社に改組し、
「日本ピラー工業株式会社」を設立

1967

三田工場竣工



2001

東証一部上場

1989

福知山工場竣工



2020

新・三田工場竣工



2023

福知山第二工場竣工



三田インバースョンセンター竣工



1920

1940

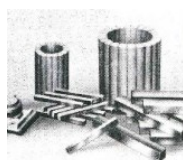
1980

2000

2020

1926

工業用パッキンの
本格的生産開始



1951

日本で初のメカニカルシー
ルを開発・生産開始



1932

自動車・船舶用の
ガスケット生産開始



1984

半導体製造装置向け
ふっ素樹脂継手を発売



2002

画期的なシール機構を
実現した継手を開発・発売



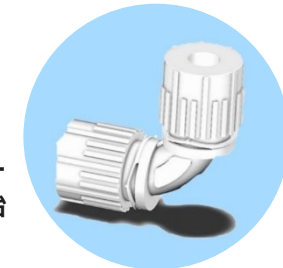
2012

半導体向けロータリー
ジョイントの生産開始



2021

次世代の高性能新型
継手を開発・発売



数字で見るPILLAR（2025年3月期）

【当社WEBサイト】
数字で見る
PILLAR



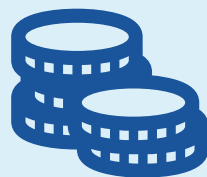
PILLAR
CLEAN SAFETY FRONTIER

連結売上高



579億円

連結営業利益



113億円

連結営業利益率



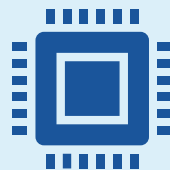
19.5%

創業



101年

継手の世界シェア



世界**No.1**
(半導体洗浄装置向け)

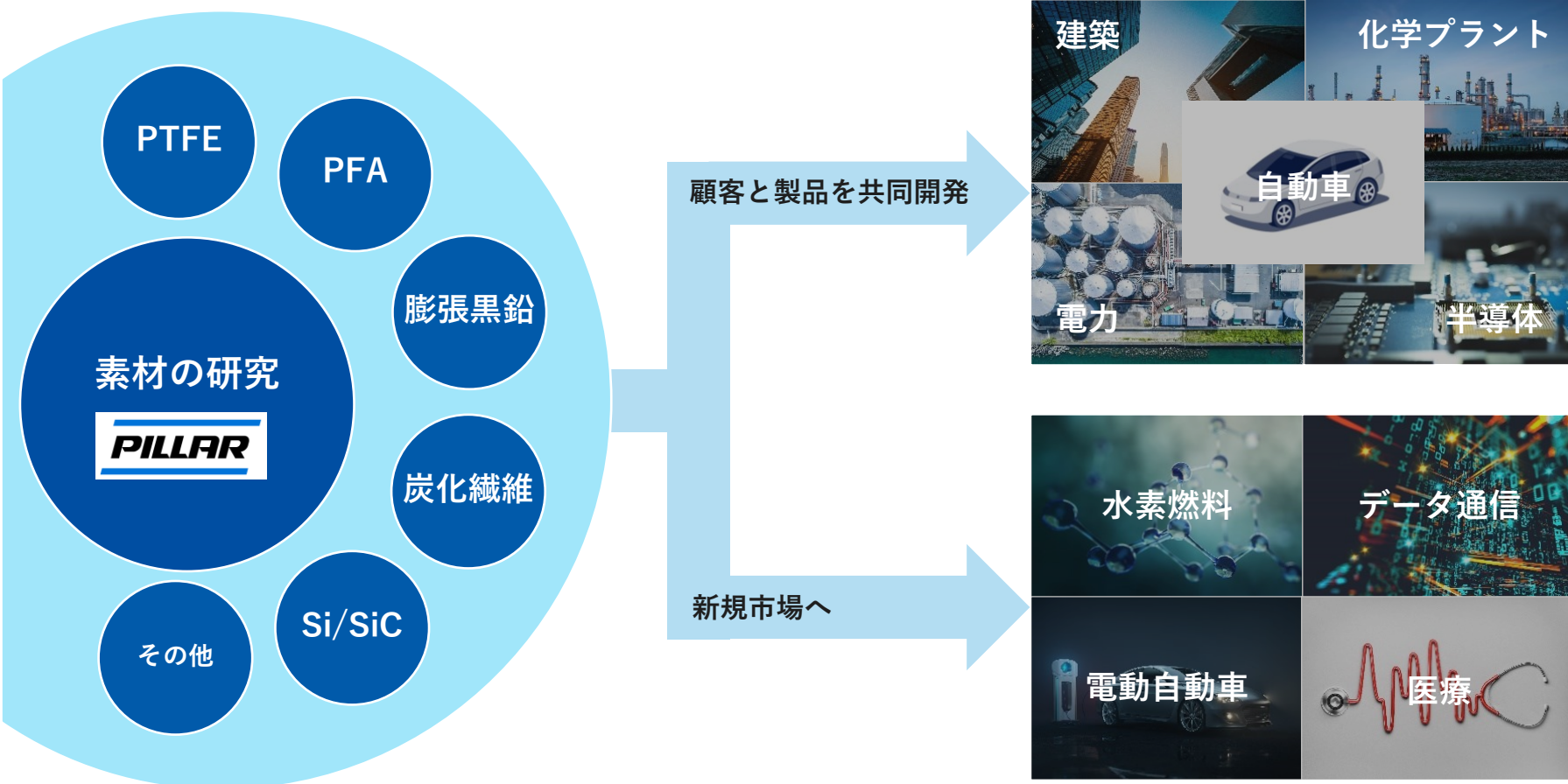
自己資本比率



75.3%

当社の強み① 100年磨いた素材開発力

- 100年にわたり液体・気体、高温・低温など様々な用途に合わせた素材を独自で研究・開発
- 素材の特性を知り尽くしているからこそ、様々なソリューションであらゆる顧客・市場に応え得る裾野の広さ
- 培った素材開発力を基にEV・水素・次世代通信（5G/6G）など新たな市場へ展開



- 電子機器関連事業では素材の特性を熟知し、技術力の向上により切削加工が一般的な製品形状でも射出成形化を実現
- 産業機器関連事業では3つのシーリング製品群で顧客ごとに流体ソリューションを提供し、顧客の課題を共に解決

ニーズに応じた製品を開発

電子機器関連事業

ハイテク市場向けに
ふっ素樹脂製の製品を提供



産業機器関連事業

メカニカルシール、グランドパッキン、
ガスケットの3つの製品群で
流体制御ソリューションを提供



顧客の
課題解決に貢献

素材の特性を熟知

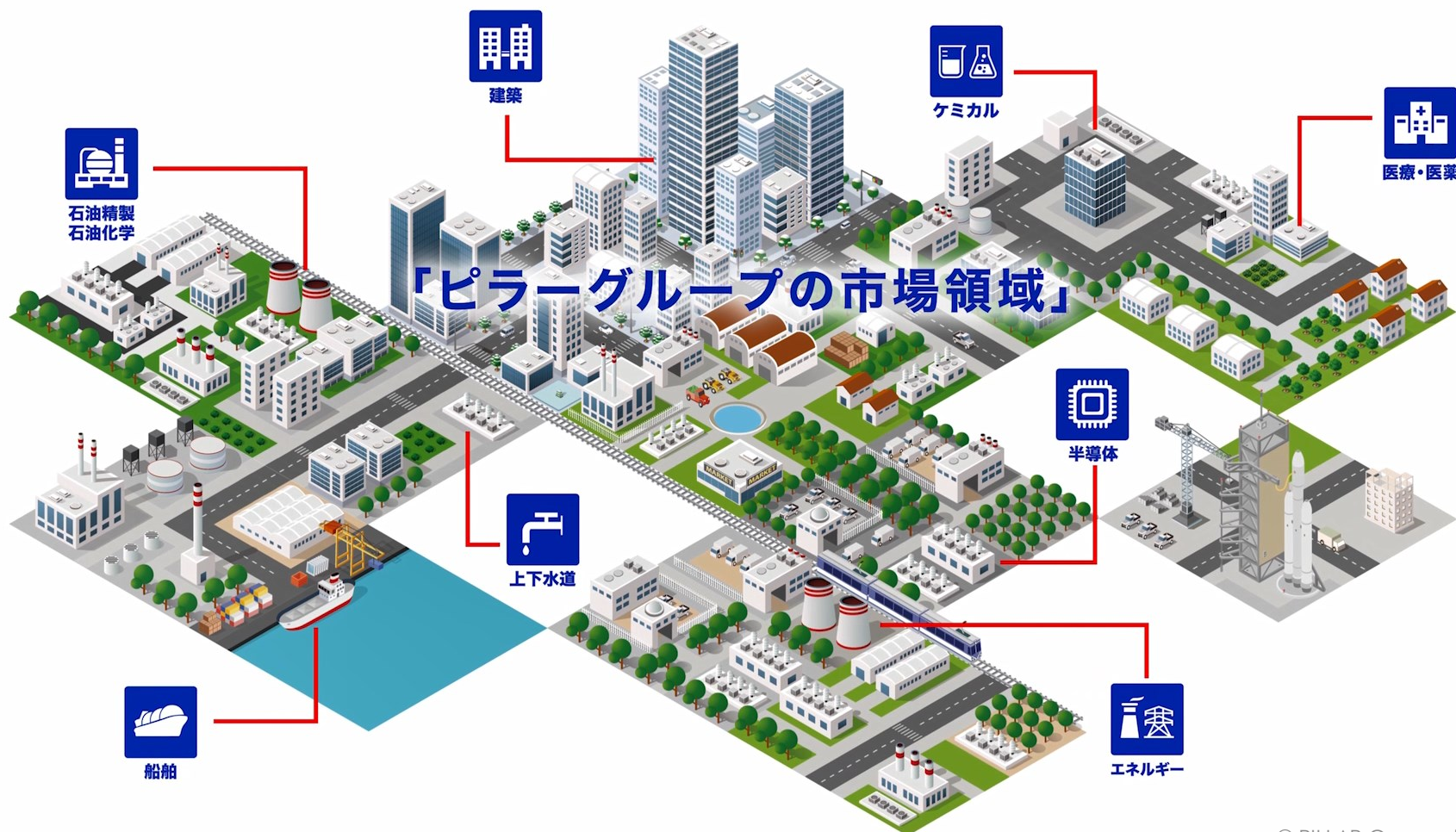
射出成形、金型成形、
製品設計の技術力

素材の組合せ・加工

豊富な液体制御製品の
品揃え

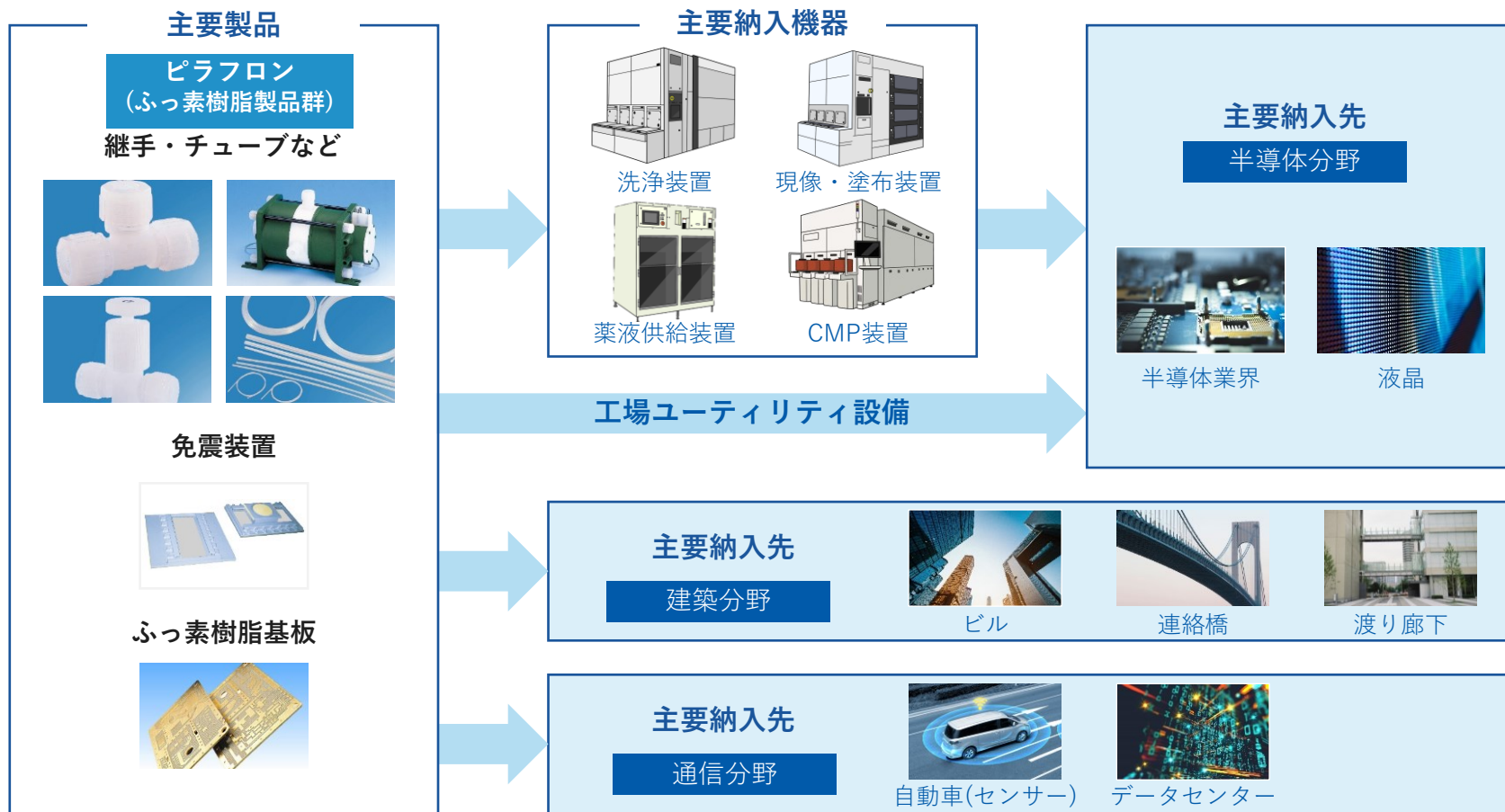
当社の市場領域

半導体・エネルギー・化学など様々な領域で、
あらゆる流体を制御して、暮らしと環境の安全・安心に貢献しています。



ふっ素樹脂の特性である「クリーン性能」・「耐薬品性」・「耐熱性」・「低摩擦性」を活かした製品群

ふっ素樹脂製の継手・チューブ等は、多様な薬液に影響されないため、半導体の基となるシリコンウエハの洗浄装置に用いられます。低摩擦性を応用し、建物から地震の揺れを逃がす免震装置に用いられています。



メカニカルシール・グランドパッキン

高温・高圧の過酷な条件で流体の漏れを止める装置で、石油精製・化学プラント・発電所などのポンプやバルブ等で使用されています。

ガスケット

配管と配管の接続部で流体を制御する機能部品であり、自動車の排ガス装置にも使用されています。

主要製品

メカニカルシール：M



グランドパッキン：G



ガスケット：V



主要納入機器



ポンプ



攪拌機



バルブ



CMP装置

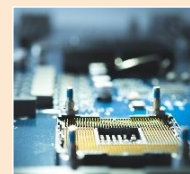
主要納入先



電力
(M/G/V)



化学プラント
(M/G/V)



半導体
(M)



社会インフラ
(M/G/V)

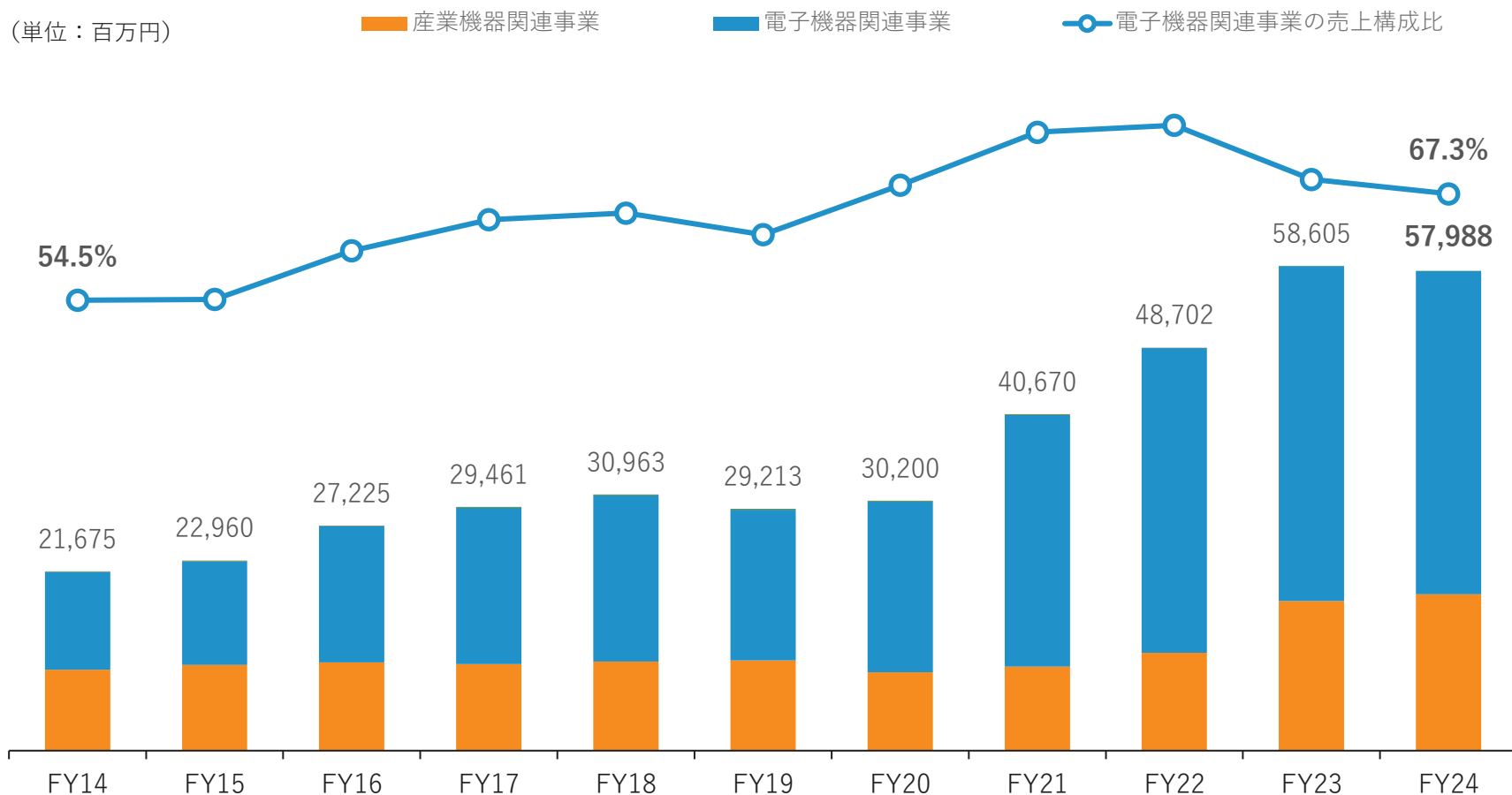


自動車
(V)
(内燃機関、マフラー等)

メンテナンス

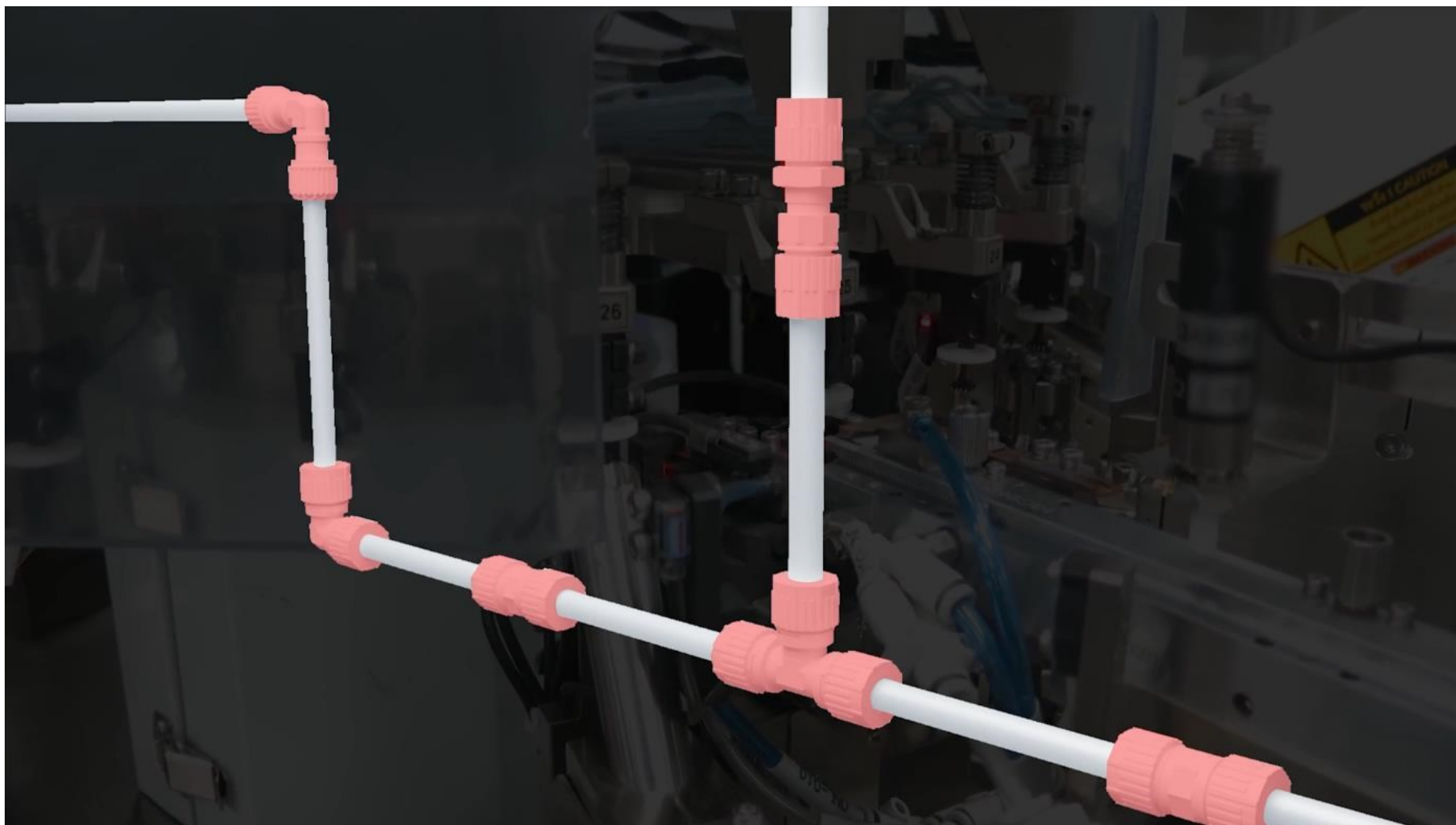
セグメント別売上・構成比の推移

- 電子機器関連事業の売上構成比は、高い市場シェアを維持しながら成長を続けた結果、2014年度の54.5%から2024年度の67.3%まで大幅にアップ
- 産業機器関連事業の売上高は、底堅い補修（メンテナンス）需要もあり事業基盤の安定化に寄与。2023年度はM&Aにより事業規模を拡大し、セグメントバランスの取れた経営に前進



ピラフロン製品紹介動画

【当社WEBサイト】
動画で見る
PILLAR

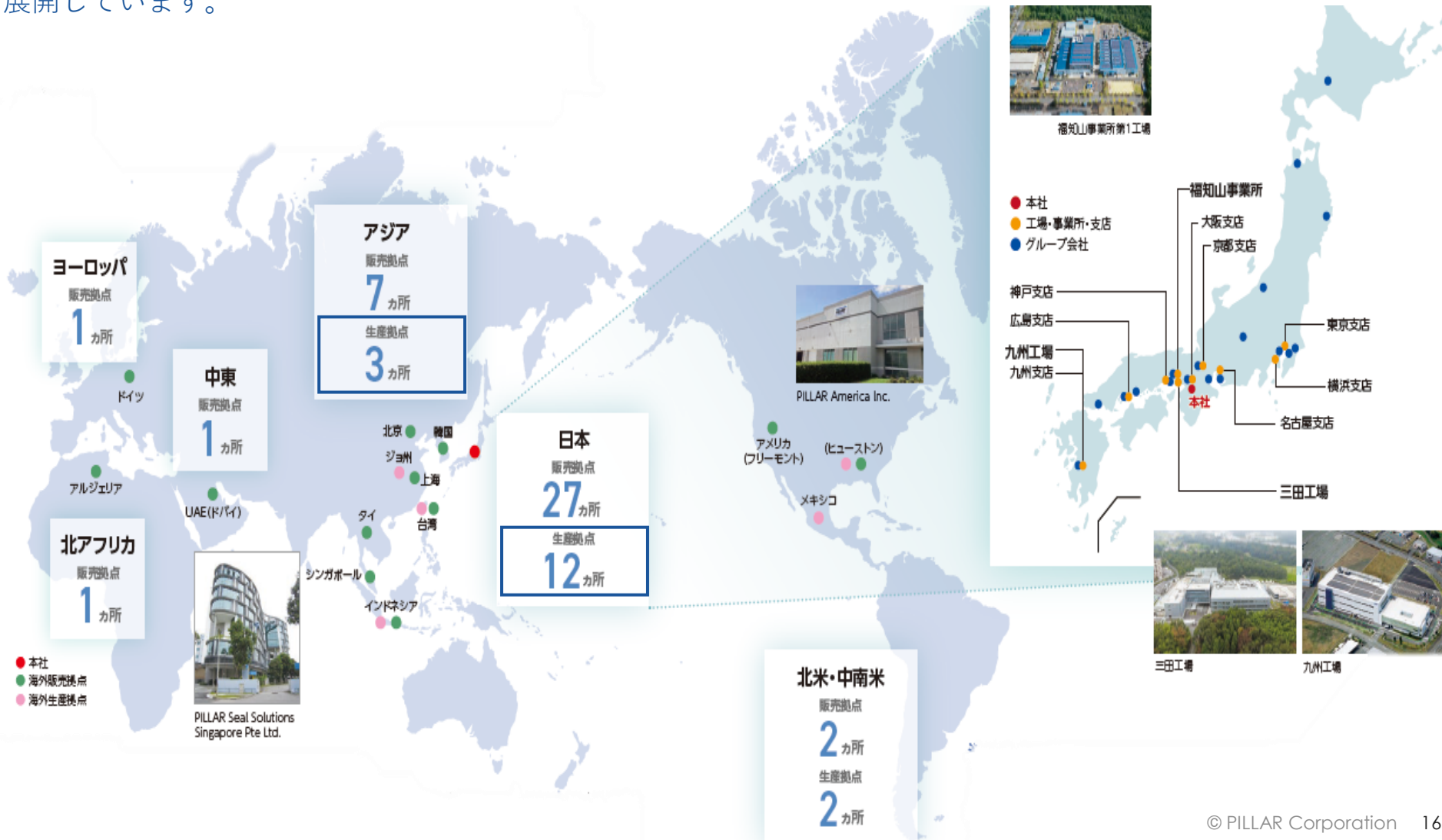


動画再生 (4分10秒)

グループネットワーク

●世界をフィールドに、技術の架け橋となります

当社グループは、1980年に初の海外拠点としてKorea Pillar Packing CO., Ltd. (現 PILLAR Korea CO., Ltd.) を設立したのを皮切りに、グローバル化を推進してきました。現在では、世界の11の国と地域で事業活動を展開しています。

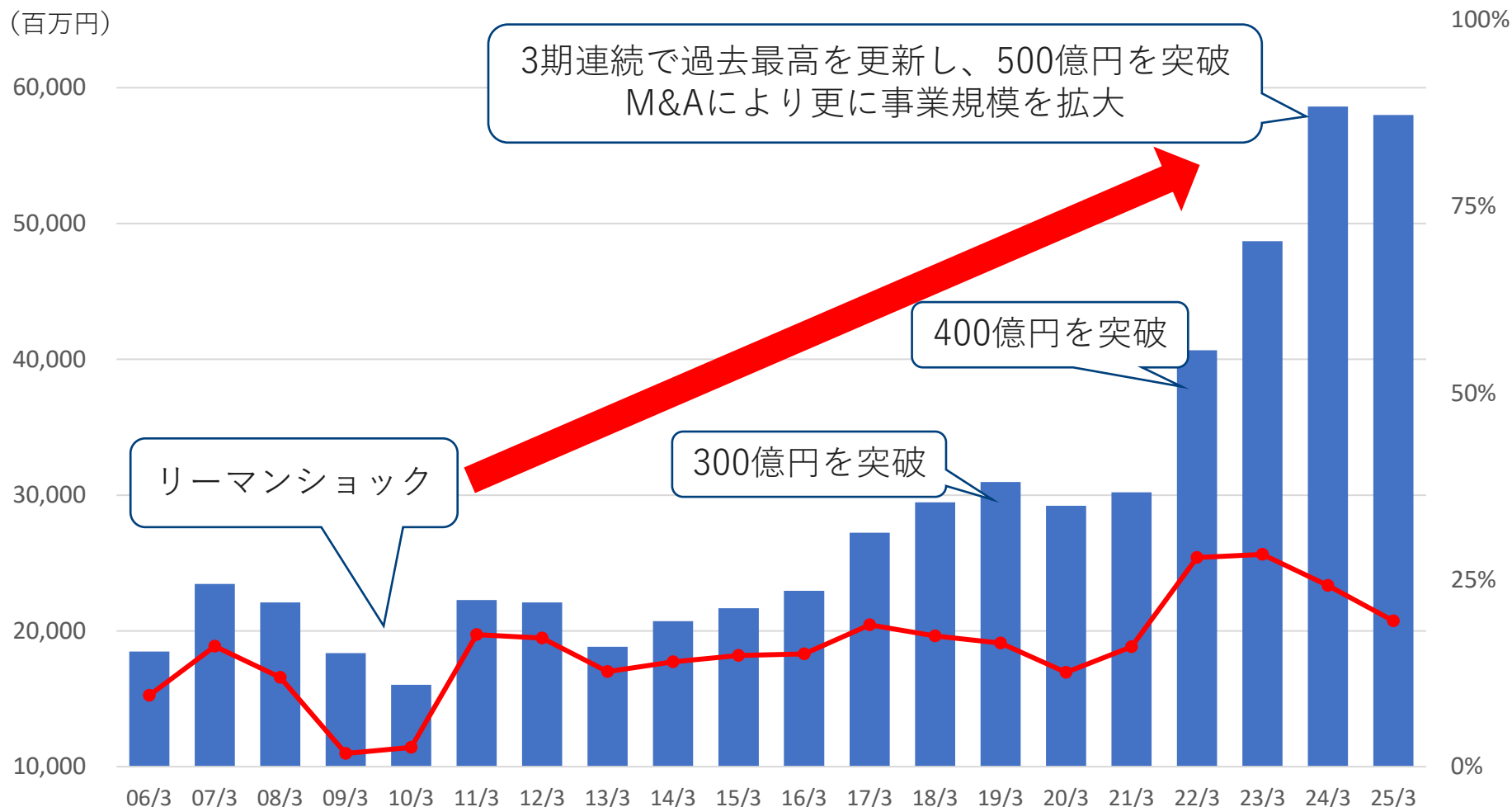


02

業績推移・業績予測・中期経営計画

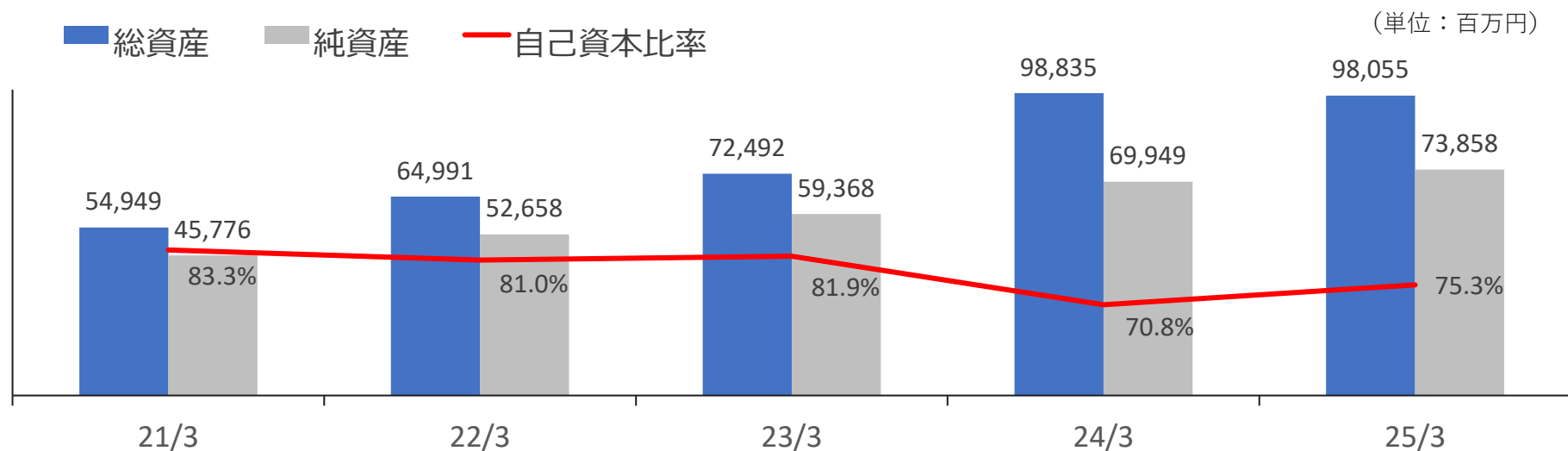
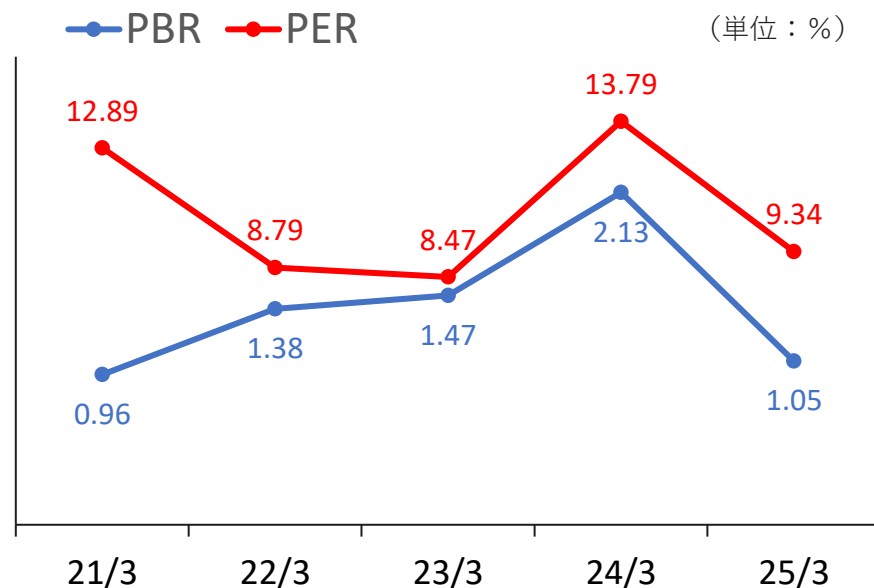
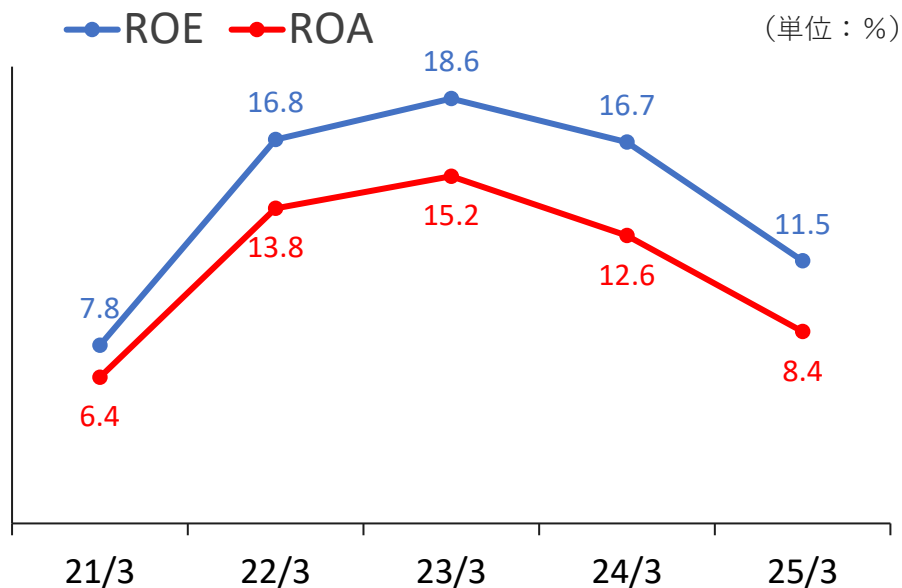
長期業績の推移

■ 売上高 ● 営業利益率



安定した売上成長を実現しながら、高水準の利益率を維持

経営指標/財政状態の推移



中期経営計画 事業目標(連結)

連結

(単位：百万円)	BTvision22	One2025					One2025
	①2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	②2025年度修正目標	③増減額 (②-①)	増減率(%) (③÷①)	2025年度当初目標
売上高	48,702	58,605	57,988	57,500	8,798	18.1	66,000
営業利益	13,842	14,206	11,335	10,300	-3,542	-25.6	17,000
営業利益率	28.4%	24.2%	19.5%	17.9%	-10.5P	—	25.7%
ROE	18.6%	16.7%	11.5%	10%以上	—	—	10%以上(＊)
配当性向	30.0%	34.4%	35.1%	30%以上	—	—	30%以上
成長投資	(3ヶ年累計) 3,715	21,415	3,671	4,000	—	—	(3ヶ年累計) 25,000

セグメント別

電子機器関連事業

売上高	36,819	40,475	39,034	36,800	-19	-0.1	48,000
営業利益	11,759	11,255	8,810	7,300	-4,459	-37.9	14,500

産業機器関連事業

売上高	11,844	18,093	18,917	20,700	8,856	74.8	18,000
営業利益	2,059	2,928	2,501	3,000	941	45.7	2,500

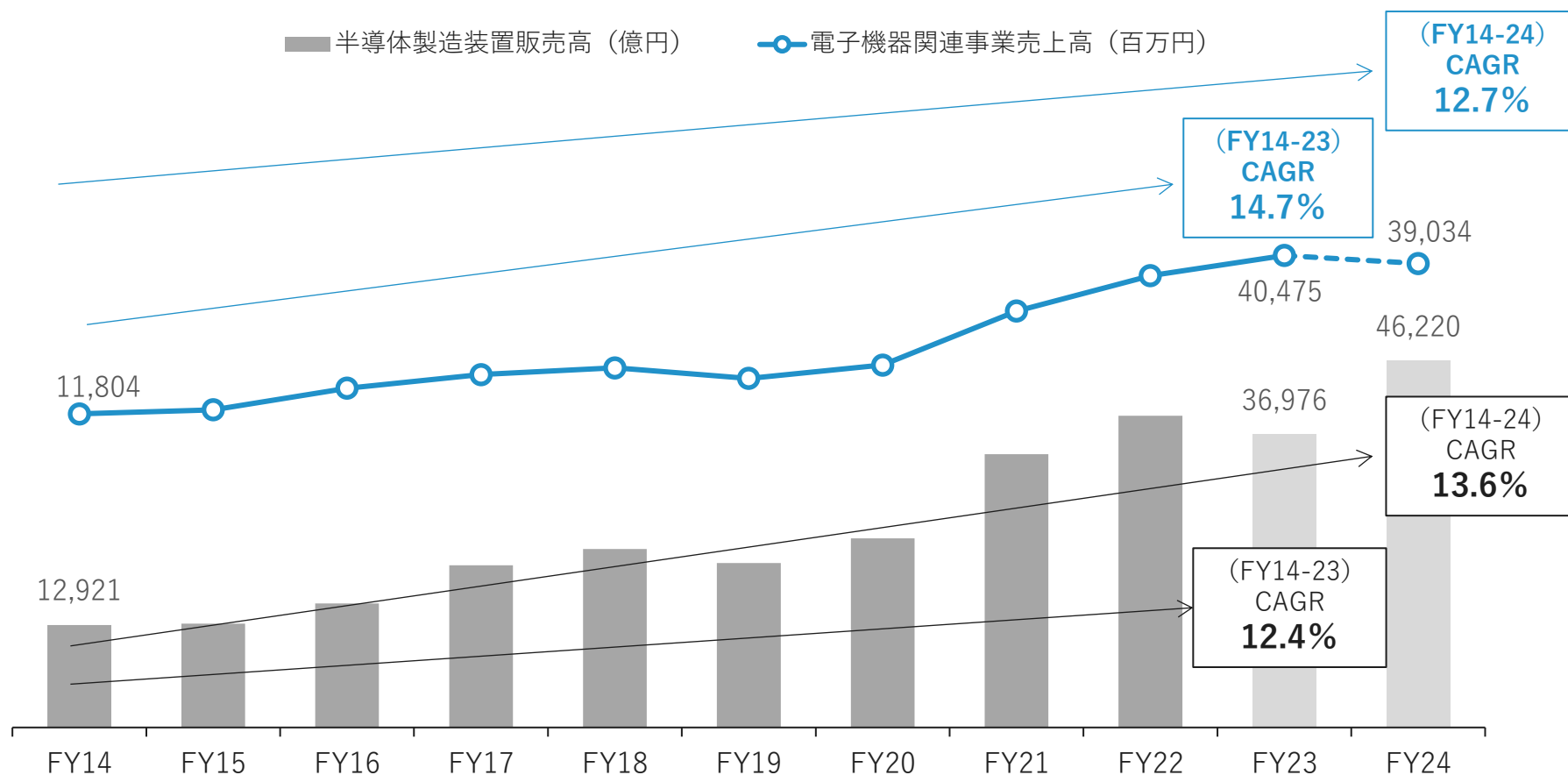
(＊)目標は10%以上としつつも、資本コストの上昇を受け当面は13～15%の水準を目指す

企業価値の更なる向上に、 事業と組織の変革・変質を推進

1	コア事業の進化	コア事業領域の更なる競争力強化だけでなく、コア技術による領域拡大に伴う成長の実現、市況に左右されない進化を経て、提供する経済価値をさらに拡大成長
2	グローバル競争力の強化	独自性の高い基盤技術の展開と、エリア特性への対応力を強化し、グローバルシェアを拡大
3	新規事業基盤の創造	半導体市場や水素・アンモニア等の成長市場において独自技術やM&A、産学連携を通して新たな事業基盤を創造
4	サステナブル経営の発展	ESG施策に加え、人材への投資と生産性向上等に寄与するDXを活用することでサステナブル経営の更なる発展
5	成長を支える財務戦略	キャッシュフロー創出力を高め、更なる成長への投資と配当性向30%以上を目標とした成長をけん引する財務戦略の推進

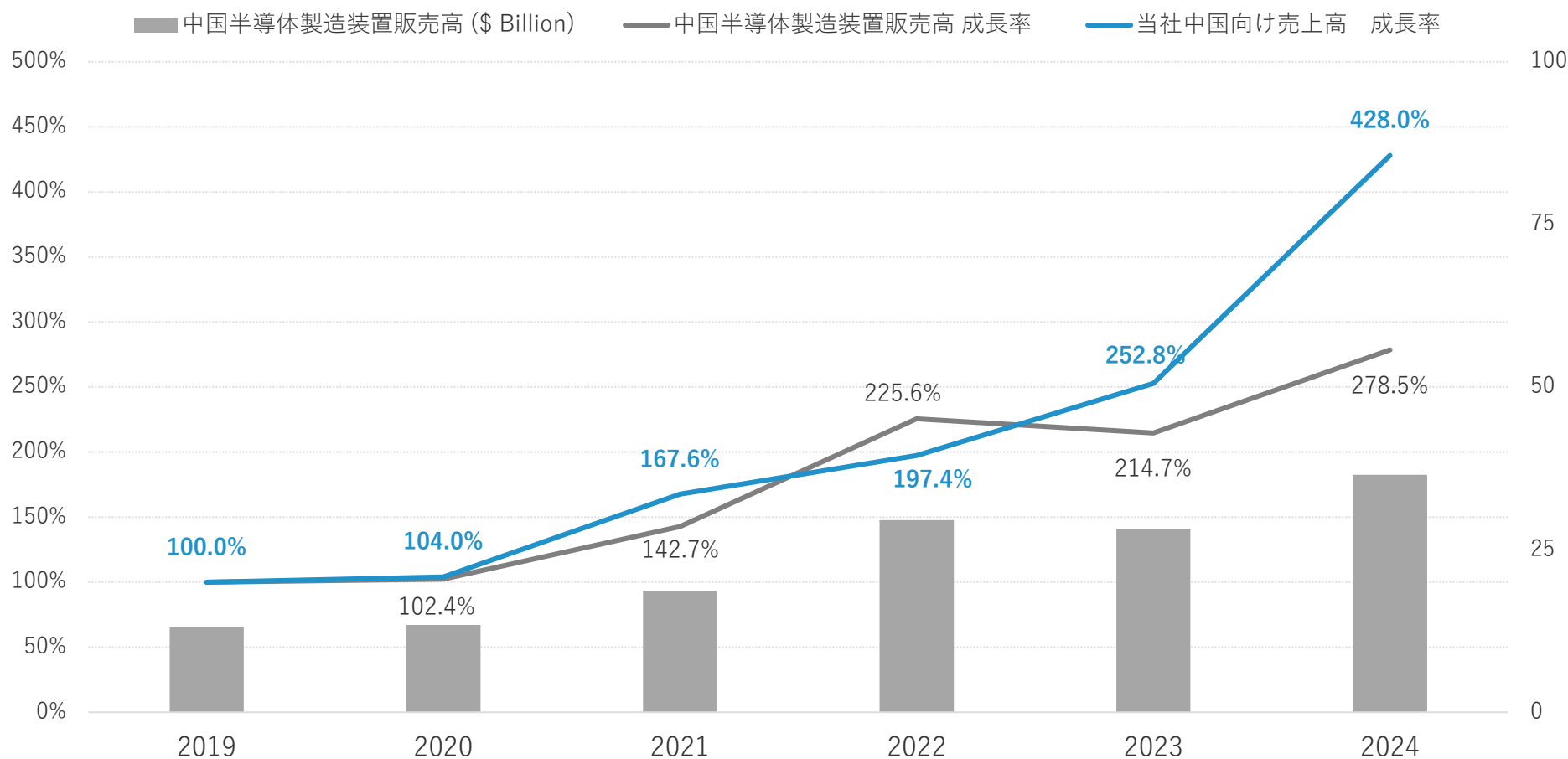
半導体製造装置市場の動向と当社主力事業の売上高推移

- 2014-2023年度で半導体製造装置市場はCAGR12.4%、当社電子機器関連事業は14.7%成長と市場成長を上回る実績
- 2024年度は一部顧客の在庫調整等から当社主力製品の受注が低調に推移したため、2024年度までを含めると市場のCAGRを若干下回るものの、概ね市場の成長率に追随
- 半導体洗浄装置向け当社継手は世界で圧倒的シェアを維持しており、需要回復後は更なる成長が持続すると予測



中国半導体製造装置市場の動向と当社中国市場向け売上高推移

- 2019年度を起点とした成長率において、2024年度の中国半導体製造装置販売高は278.5%の成長、当社の中国市場向け売上高は428.0%と市場成長率を大きく上回る
- 今後は中国国内のサプライチェーンを構築・完結させることで中国事業の更なる強化を図る

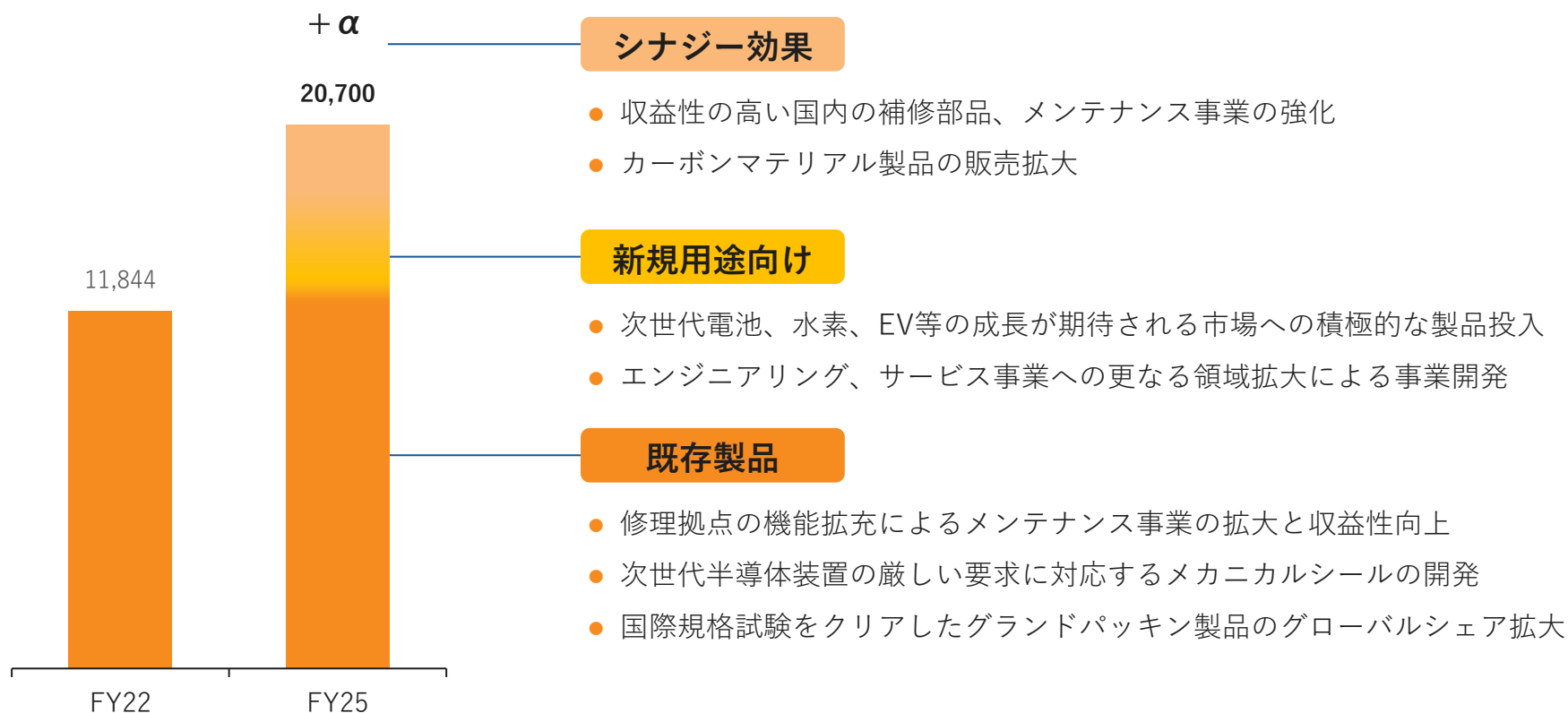


	2025年3月期の成果	今後のアクションプラン
更なる競争力向上に向けた基盤強化 ▼	● 福知山第1工場の能力増強工事に着手 ● 福知山第2工場における自動化ライン稼働開始に伴い生産性が向上	● ふっ素樹脂代替製品の開発継続 ● 自動組立・検査装置の評価・検証・稼働 ● 再生材の内製化
既存市場・製品の強化 ▼	● ジョ州ピラーにおける半導体市場向け生産品目の更なる拡充 ● 中国：半導体市場における新規顧客獲得 ● 有機溶媒を使わない環境配慮型の洗浄方法へ切り替え	● 中国市場での新規顧客開拓の強化 ● 新たな洗浄方法を確立し、より清浄度が向上した差別化商材の開発 ● 商材拡充・LT短縮などの施策により国内外の既存顧客との取引拡大
新規事業の創出	● 電力監視センサを開発・上市し、保守サポートビジネスを開始 ● 医療・医薬市場など新規市場への参入に向けた製品開発・PR	● 5G基地局・データセンター向けふっ素樹脂基板の開発継続・海外市場の進出検討 ● IT/DXを活用したパッケージビジネス展開の検討

産業機器関連事業の成長イメージ

- CMP装置向けメカニカルシール(ロータリージョイント)を主力製品の1つとして、更なるシェア獲得・拡大を目指す
- 「脱炭素」に向けたクリーンエネルギーへの転換が加速する中、水素・EV・SAFなどの新市場を中長期的な事業機会と捉え、スピード感を伴う製品開発を進める方針
- タンケンシールセーコウグループ化によるシナジー効果を最大限に生み出し、市場シェアの向上、業績拡大を図る

売上構成成長イメージ(単位：百万円)



	2025年3月期の成果	今後のアクションプラン
更なる競争力向上に向けた基盤強化	● タンケンとのクロスセル、相互調達を推進 ● 生産工程の抜本的な見直しのほか、製造コスト削減への取組み推進 ● 技術システム刷新による開発スピード向上	● タンケンとのシナジー最大化を目指す ● 自動化設備・システムの導入により、更なる生産プロセス改革・効率化に邁進 ● 自動設計のほか、技術システムの更なる機能向上
既存市場・製品の強化	● ジョ州ピラーにおけるRJ生産体制構築 ● メカニカルシール状態監視用IoTデバイスの試作・評価完了 ● 中国市場を中心とした多孔質カーボン拡販に向けたPR実施	● ジョ州ピラーにおけるRJの量産体制構築 ● 中国市場での多孔質カーボン製品の拡販 ● 欧米市場向け環境貢献型パッキンの拡販を中心としたグローバル化の推進
新規事業の創出	● 状態監視用IoTデバイスを搭載したメカニカルシールの量産試作完了 ● 特定PFASフリーパッキン開発・上市 ● 水素・次世代電池市場向け新製品の顧客試験継続実施 ● 異材質の組み合わせでシール性能の向上と環境貢献を両立させる新型パッキンの開発	● IoTデバイス付きメカニカルシールの上市と状態監視サービスの開始 ● 新エネルギー市場における顧客ニーズの調査、提案の実施 ● 水素市場向け継手生産に向けた射出成形技術の活用

主なTOPICS① 福知山第2工場 最新鋭設備導入

竣工

2023年9月

所在地

京都府福知山市（長田野工業団地）

主要生産品目

電子機器関連製品（継手製品）

成長戦略

- 半導体市場の成長に応じた生産能力の大幅アップ（MAX80%増）
- **自動化・省人化設備の導入により更なるコスト競争力を強化**
- 顧客からの厳しい品質要求への対応

CASBEE® Sランク（素晴らしい）取得



自動倉庫

※CASBEE（建築環境総合性能評価システム）

国交省が主導し、建築物について省エネを始め地球や周辺環境に配慮しているかなどを評価するシステム

S・A・B+・B-・Cの5ランクで評価される。

主なTOPICS② ジョ州ピラー 生産品目拡大

所在地

中国安徽省滁州

主な生産品目

産機製品、ロータリージョイント、成型・切削継手、チューブ

成長戦略

- 従来の産業機器製品に加え、半導体関連製品の生産を開始
- 中国国内で「原材料調達⇒生産⇒販売」のサプライチェーン網を構築し、中国事業強化を図る



ジョ州工場



S300継手



ロータリージョイント

主なTOPICS③ 新商品 電力監視センサ開発・上市

- 耐熱性・対候性のあるふっ素樹脂基板を活用した電力監視センサ「EcoMA」を開発
- 工場やプラント等、様々な設備の消費電力が可視化でき、設備の省エネルギー化やCO₂排出量削減といった企業の環境ニーズに応える



主なTOPICS④ ESG経営・知名度向上

「健康経営優良法人 2025」の認定

- 3年連続、大規模法人部門「健康経営優良法人2025」認定
- 従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいることが評価



2025
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門

3月1日(土)テレビ東京系列「知られざるガリバー」で当社が紹介

- 日本に存在する優れた技術力や仕組みを持つ企業として紹介
- 当社100年事業の歩みや液体を漏らさず制御する独自の技術力、今後の展望について説明



03

株主還元

株主還元

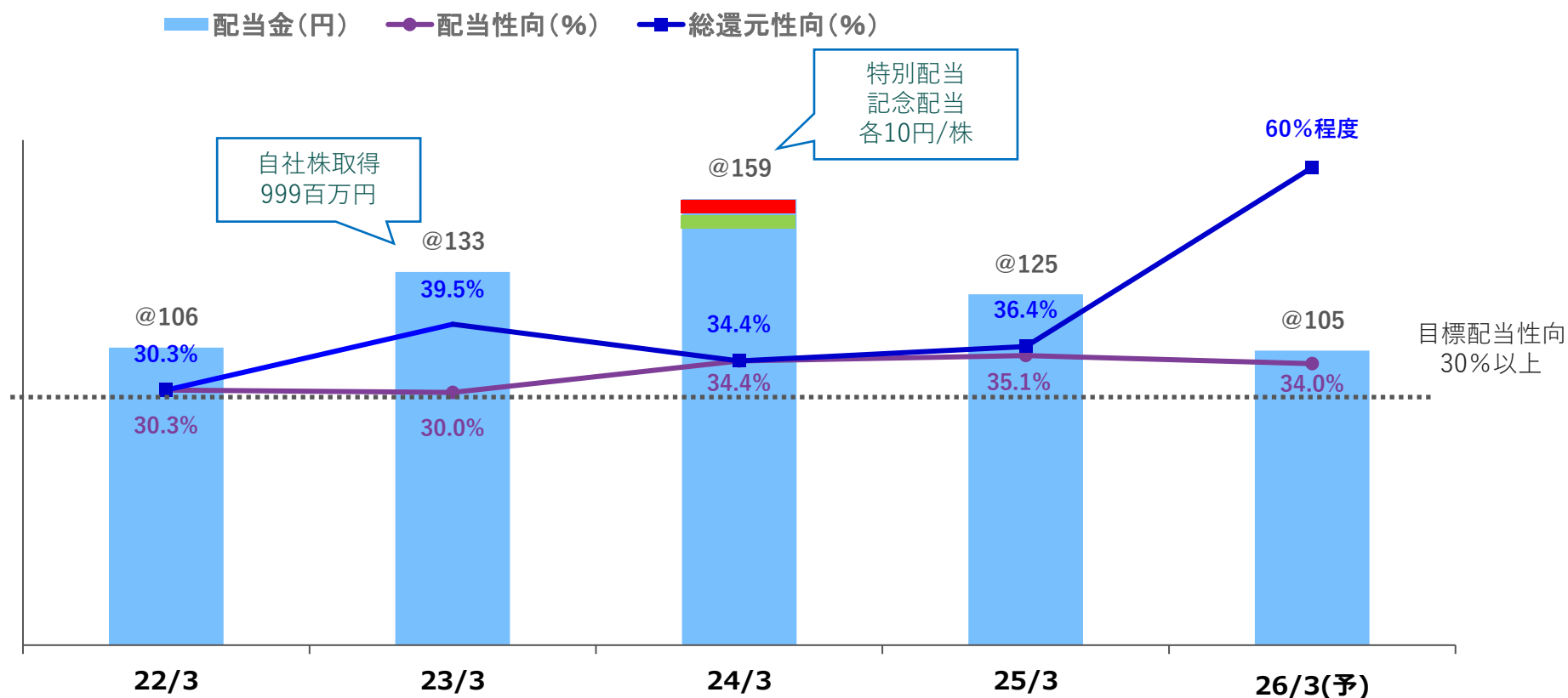
【当社WEBサイト】
配当・株主優待



- 配当方針：安定的かつ継続的な配当とし配当性向30%以上を目標
- 配当予想：年間105円/株（連結配当性向34.0%）
- 自己株式取得：最大20億円実施（2025年5月～11月）、総還元性向（配当＋自己株式取得）は60%程度を予想

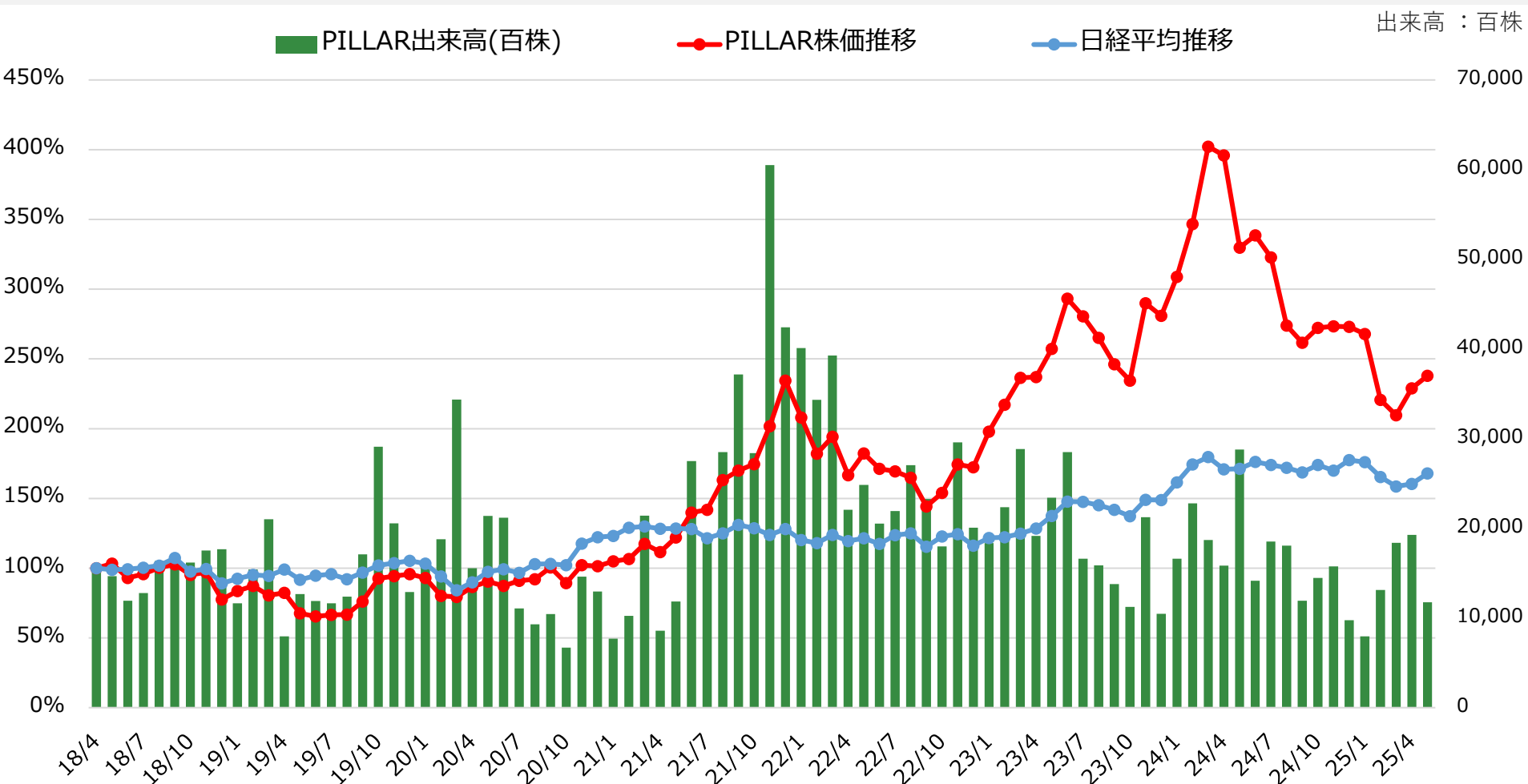
（単位：円）

一株当たり当期純利益・配当金・配当性向



株価ファンチャート

- 2018年4月を起点に2025年5月までの株価の伸び率
- 日経平均株価を大きくアウトパフォーム



株主優待

一定の株式を保有していただいている株主様に感謝するとともに、より多くの株主様に当社株式を中長期的に保有していただくことを目的として、株主優待制度を導入しております。

オリジナルQUOカード進呈



企業情報サイト「**知って得する株主優待**」にて当社の優待情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://yutai.net-ir.ne.jp/company/6490/>



保有株式数／継続保有期間	3年未満	3年以上
100株～500株未満	1,500円	2,000円
500株～1,000株未満	2,000円	3,000円
1,000株以上	3,000円	4,000円

(注)：保有年数3年以上とは、毎年3月末日及び9月末日現在の株主名簿に同一の株主番号が連続して7回以上記載または記録されていること

利回り シミュレーション

■100株を3年以上保有した場合

	金額
株価（2025/5/29終値）	3,780円
最低投資金額（100株）	378,000円
年間配当金（25年3月期予定）	12,500円
株主優待（年1回/3年以上保有）※	2,000円
年間配当金＋株主優待 （トータル利回り）	14,500円 (3.84%)

※期末時点の株主名簿に記載された1単位（100株）以上保有の株主様が対象

お知らせ

野村IRの企業情報サイトネットアイアールの「アイアールmagazine」コーナーにて「IRレポート」及び「トップの素顔」を掲載中。
こちら是非ご覧ください！

<https://ir-magazine.net-ir.ne.jp/special/detail/id=10727>



IRレポート



<https://ir-magazine.net-ir.ne.jp/sugao/detail/id=10726>



トップの素顔



本日はありがとうございました

当社WEBサイトのご案内

トップメッセージや中期経営計画、最新のIR資料、株式関連情報などを掲載しております。ぜひご覧ください。



<https://www.pillar.co.jp/ja/ir/>

会社・製品紹介動画のご案内

会社案内および製品紹介動画を当社WEBサイトで公開しております。こちらもぜひご覧ください。



<https://www.pillar.co.jp/ja/about/movie/>

- ・本資料には、将来の業績に関する予想、計画、見通しなどの記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
- ・将来の業績は、主要市場の経済情報、製品需要の変動、為替相場の影響、国内外の各種規制、会計基準・慣行等の変更により、大幅に異なる可能性があることをご留意ください。
- ・本資料は情報の提供を目的として作成したものであり、本資料によって何らかの行動を勧誘するものではありません。

【IRに関するお問い合わせ先】

株式会社PILLAR 経営企画部

<https://www.pillar.co.jp/ja/inquiry/ir/>

